

原 強 プ 第 1 7 号
平成23年10月21日

島 根 県 知 事 溝 口 善 兵 衛 様

中国電力株式会社
取締役副社長
原子力強化プロジェクト長
岩 崎 恭 久

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成23年10月6日に開催された、第5回原子力安全文化有識者会議の議事概要
について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19
日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第5回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以 上

第5回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成23年10月6日(木) 13時30分～16時10分
- 開催場所 島根原子力発電所 (島根県松江市鹿島町片匂654-1)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 亀城委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員
[一般委員] 首藤委員, 中谷内委員,
※ 宇於崎委員, 樋口委員, 増田委員は欠席
[社内委員] 岩崎原子力強化プロジェクト長, 松井副社長, 古林常務

○ 議事概要

1. 開催挨拶(岩崎)

- ・ 現社長 荻田の後任のプロジェクト長となり幹事を務めること, 島根原子力本部長の古林が現副社長 清水の後任として本日の委員を務めること。
- ・ 点検不備問題の再発防止対策の確実な実施と, 委員の皆さまのご意見・ご提言を踏まえた更なるレベルアップを目指すこと。
- ・ 福島第一原子力発電所事故については, 同じ原子力事業に携わるものとして重く受け止め, 対策を実施していること。
- ・ これら対応状況について当社から報告するので, 委員の皆さまには忌憚のないご意見・ご提言をいただきたいこと。

2. 出席委員の確認

事務局より資料1に基づき参加委員の確認および宇於崎委員, 樋口委員, 増田委員の欠席を案内した。

3. 議事

資料2に基づき、電源事業本部部長 福原および原子力強化プロジェクト部長 岡田から議題1（平成23年度再発防止対策および原子力安全文化醸成活動の実施状況について）を、電源事業本部専任部長 北野から議題2（福島第一原子力発電所事故を踏まえた島根原子力発電所の対応状況について）を説明した。

主な意見は、以下のとおり。

(1) 議題1「平成23年度再発防止対策および原子力安全文化醸成活動の実施状況について」

(福島支援経験の共有・反映)

- ・ 福島支援経験者からの意見は貴重であり、アンケートを社内展開するのも良いが、体験談・報告会のような生の声を聞く場を作ると役立つ。
- ・ 福島支援の経験者の感想は、私達にも伝わってくるものがある。このような安全・安心に対する前向きな姿勢を発信していくのが良い。
- ・ 福島第一事故は、ある意味、人災の部分もあると考えられ、福島支援で感じたことを業務に生かしていくことが大切。

(福島第一事故を踏まえた安全・安心)

- ・ 福島第一事故の発生により、「考えられていなかった事象に対してどう対応するのか」というような意見・疑問が出てくるが、一方で「考えられないものへの対応は不合理だ」という技術者意見も出てくる。これからは、「見えないものをどう見たらよいのか」を考えていくことも必要。
- ・ 福島第一事故の前後で、原子力安全文化のあり方は変わった。「リスクは確実に存在する」ことが明らかな下では、「安全だから安心です」という発信は無意味。「リスクに、こう備えています」「万一の場合には、こうします」「福島第一の事故から、このようなことを学んでいます」「地域の皆さまにはこういう対策を打ちます」という、リスクを前提としたメッセージの発信の方が良いのではないか。
- ・ 福島第一事故後は、ただ「安全ですよ」と説明を聞くだけでは安心できない。裏付けのある安全対策と、住民への徹底した説明を、わかりやすい言葉でお願いしたい。

(その他)

- ・ 発電所を稼働させる上で最小の組織単位が「課」とすれば、そこへの人的配置と、権限、機能を上手く働かせることが大切。
- ・ 地域行事の後に、平素顔をあわせていない地元住民と中電社員との茶話会を持ったところ、地元では「社員の顔が見られて良かった」「実際に話をしてみて少し安心した」との評価だったので、これからも素朴な意見交換の場を設けてほしい。
- ・ 中国電力のホームページは、カラー、動画等も入って以前よりわかりやすくなった。

(2) 議題2「福島第一原子力発電所事故を踏まえた島根原子力発電所の対応状況について」

(大規模災害への対応体制)

- ・ 3/11の災害発生に対して、3/13の緊急対策本部設置は、少し遅いのではないか。自社供給区域外での大規模災害発生時の体制を明確にしておくことが必要ではないか。
- ・ 昨年末～今年正月のような雪害時に地震が起きたらどうなるのか。災害時の社員の召集方法・ルート確保を、道路、海路などで考えておくことが必要。

(地震・津波対策)

- ・ 直下型地震発生時の配管破断など、地震に対するシビアアクシデント対策も考えておくことが必要。
- ・ 津波対策については、対策の実施状況を見学し、更なる対策も準備中と聞き安心した。
- ・ 福島第一事故で、率直に「恐怖をいただいている」が、ここまで対策すれば大丈夫かなとも思う。

(ストレステスト)

- ・ ストレステストの結果として出てくる安全裕度の評価、リスク評価についての考え方を社外にもわかりやすく説明することが必要。
- ・ ストレステストの評価と、高経年化の評価との関係についても十分な説明が必要。
- ・ 設備面のストレステストのみならず、ソフト面のストレステストも必要。それに基づき、例えば、メルトダウンを起こしたときの事故処理班の設置や、ロボット対応などの対策も考える必要があるのではないか。

4. 閉会あいさつ

岩崎より、積極的な意見・提言へ感謝の意を述べた。

以上